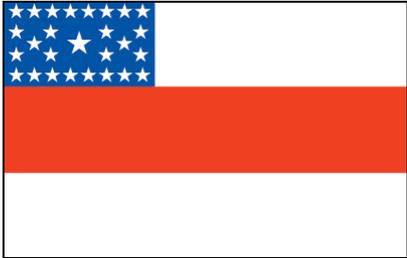


第21章 マナウス自由貿易地域

アマゾナス州 (o Estado do Amazonas) / 略称「AM」	
州旗	位置
	
<p>青い長方形の中に描かれた 25 の星は 1897 年当時州内にあった自治体の数を表す。中央の大きな星がマナウスを示している。</p>	
面積、人口 (2010 年)	面積 1,570,746 k m ² (全国 1 位)、人口 3,481 千人 (全国 15 位)
域内総生産 (2008 年)	46,823 百万レアル (全国位)、一人当たり 14,014 レアル (全国位)
州都および人口の多い都市 (人口は 2010 年)	州都：マナウス (1,803 千人) その他都市：パリンチンス (102 千人)、イタコアチアラ (87 千人)、マナカプル (85 千人)、コアリ (76 千人)、テフェー (61 千人)
略史	<p>ヨーロッパ人によるアマゾナス州域の開拓は、主に 1616 年のベレン (現パラ州) の設立に端を発する。17 世紀の前半を通じ、多くの原住民の生活・生命を犠牲にする形で、ポルトガル人によるアマゾン上流域への探索が進んでいった。</p> <p>19 世紀の前半の内戦 (カバナージェンの反乱) を経て、1850 年にマナウスを首府とする自治区となった。19 世紀の後半からはゴムの産地として発展し、その集積地としてのマナウスの開発も進む。その後ゴムプランテーションの主力がアジアに移動し、第二次世界大戦時に再びアマゾンがゴム産地としてクローズアップされるといった沈滞と成長を経つつも、産業構造の転換の流れの中で、1967 年のマナウス・フリーゾーンの設置によって連邦政府主導での産業誘導が図られるようになった。</p>
産業動向	<p>域内総生産および一人あたり域内総生産は、北部地域ではいずれも上位にあるが、ブラジル全体では中位に位置する。約 468 億レアルの域内総生産は全国の約 1.5% に当たる。</p> <p>マナウス・フリーゾーン (ZFM) の設置によって工業化が推し進められた結果、現在では域内総生産の 3 割以上を製造業が占める構造となっている。</p>

I. 概要・投資促進政策

I-1. 概要

マナウスはブラジルで最大の面積を有するアマゾナス州の州都である。ブラジル国内への主要都市への移動は空路または水路が主な交通手段であり、マナウスはいわば「陸の孤島」といえる。

マナウスはもともとゴムの一大生産地であり、ブラジルの産業を支えたが、ブラジルのゴムの国際競争力がなくなると共に一時は都市も衰退した。

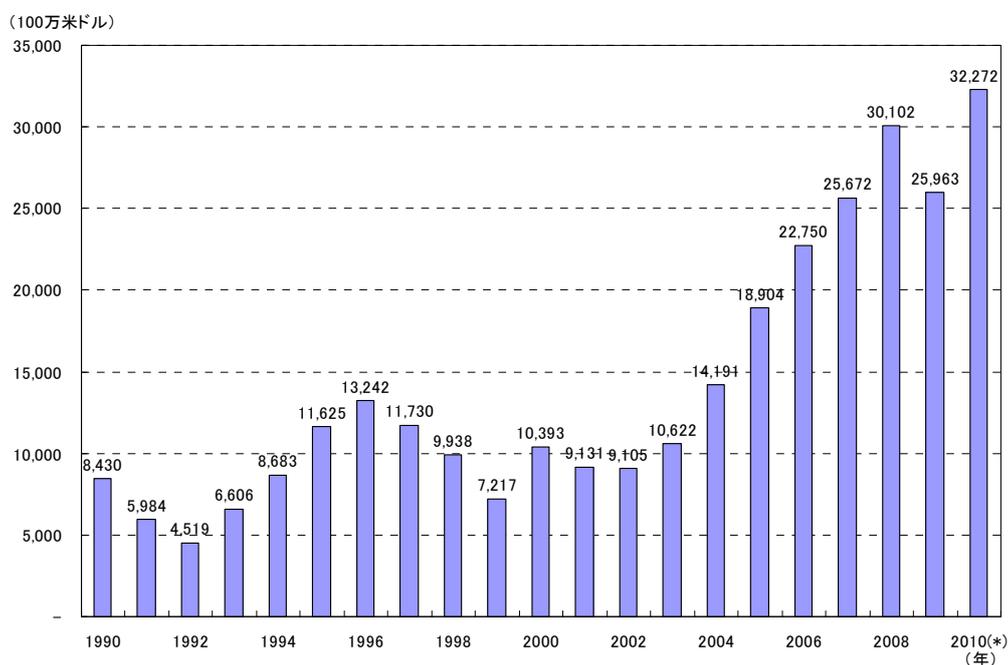
マナウスは、軍政権時代に輸入代替品の生産拠点として、選択された地域での工業誘致を開始した地域の一つとなった。現在はブラジルで最も成功しているフリーゾーンとなっている。マナウスのフリーゾーンには、製造業を主とする日系企業が多数進出している。マナウスに立地する企業の主な事業は、海外から部品を輸入して完成品を組立て、ブラジル国内向けに販売する、というビジネスモデルをとっている。これについては後述する。

図表 21-1 アマゾン地帯における自由貿易地域



(出所：マナウス自由貿易地域監督庁 ウェブサイト)

図表 21-2 マナウス自由貿易地域売上高推移

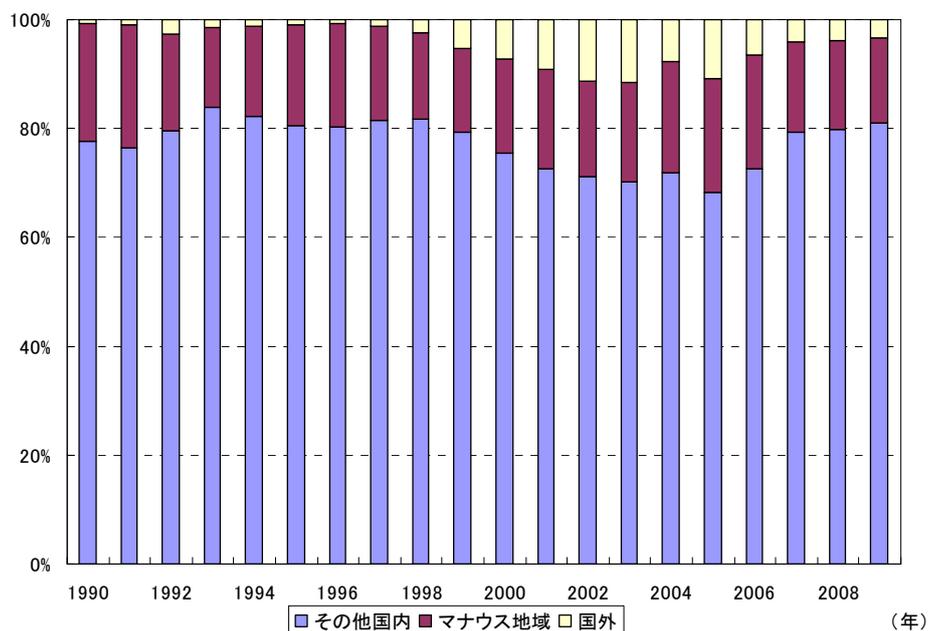


(出所：アマゾナス日系商工会議所)

マナウス自由貿易地域で製造された製品の仕向け先を見ると、2009年では売上高のうち約97%がブラジル国内向で、そのうち約15.4%がマナウス地域向、約81.6%が大消費地であるサンパウロなどマナウス以外の地域向である。ただし、2000年に入り、マナウス地域でもメルコスール等域内貿易の活発化の影響を受け、海外への輸出が拡大し、金額ベースでの海外売上が増加している。2009年の海外売上高は約857,448千米ドルであった。

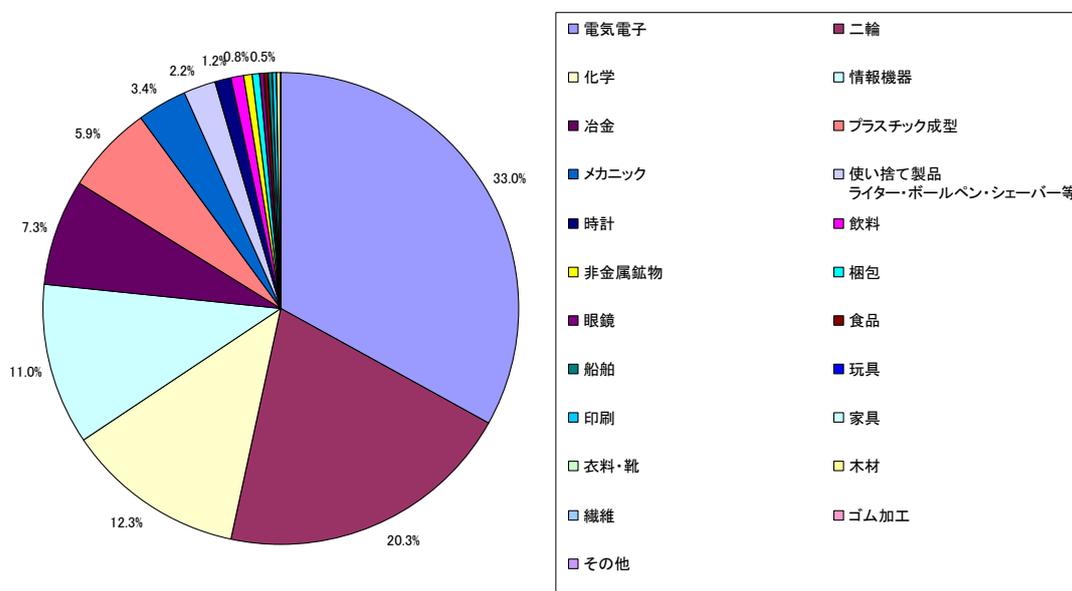
2009年の部門別売上割合をみると、電気・電子部門が33.0%、二輪が20.3%であり、この2部門で全体の約半数の売上となっている。

図表 21-3 マナウス自由貿易地域で製造された製品の地域別売上割合（1990～2009年）



（出所：アマゾナス日系商工会議所）

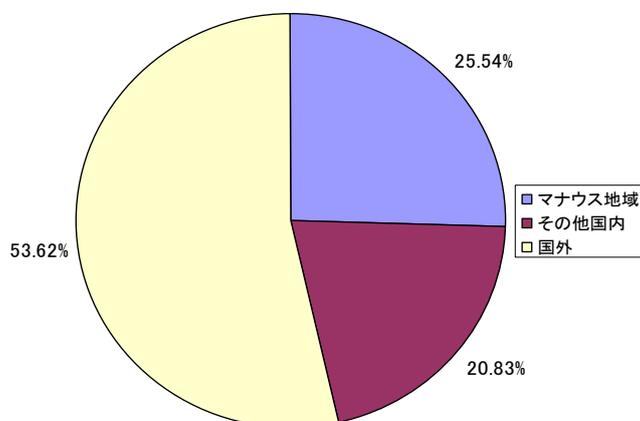
図表 21-4 マナウス自由貿易地域部門別売上割合（2009年）



（出所：アマゾナス日系商工会議所）

現在、マナウス自由貿易地域で製造される製品のうち、国内で調達しているのは、約46%である。約54%はブラジル国外からの輸入に頼っている。

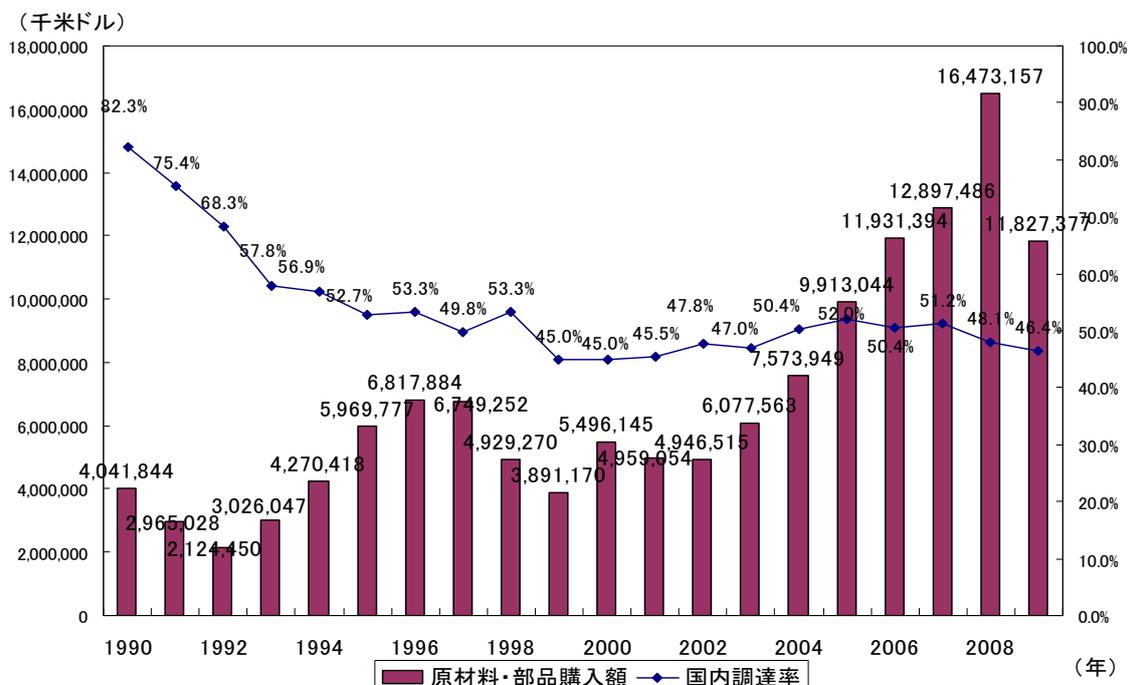
図表 21-5 マナウス自由貿易地域 2009 年の部品調達割合（金額ベース）



(出所：アマゾナス日系商工会議所)

1990 年代初頭は、輸入代替工業化政策を採用していた時代の名残もあり、マナウス地域においても部品の国内調達率が高かった。その後、自由化によって主にアジアからの部品の輸入が始まると、次第に部品の調達率が低下した。2000 年から 2009 年までのマナウス自由貿易地域における部品調達率の平均は 48.4% である。

図表 21-6 マナウス自由貿易地域国内部品調達割合推移（1990～2009 年）



(出所：アマゾナス日系商工会議所)

1-2. 投資促進政策・管轄

① 恩典概要

恩典として、以下の免税・減免措置が用意されている。

- ・ 連邦税である輸入税の免除
- ・ 工業製品税 (IPI) の免除
- ・ 商品流通サービス税 (ICMS) の減免措置
- ・ 社会統合計画・社会保険融資負担金 (PIS/Cofins) の減免措置

マナウスにおける具体的な免税率は、以下の図表 21-7 の通りである。

輸入税の恩恵のメリットは大きく、2023 年まで恩典が継続され、2033 年の継続が、アマゾナス州で現在、検討されている。

図表 21-7 ブラジル税制とマナウスにおける恩恵

	税金の種類	概略	課税ベースと課税率	マナウスにおける恩恵
連邦税	法人所得税 (IPRJ)	法人税	課税所得×25%	25%免税
	社会負担金 (CSLL)	法人税	課税所得×9%	25%免税
	輸入税 (II)	関税	CIF × 課税率 (17.0%)	88%免税
	工業製品税 (IPI)	物品税	(CIF + 輸入税) × 課税率 (20%)	100%免税
	社会統合計画負担金 (PIS)	年金税制負担金	売上高×1.65%	課税されるが、3.65%まで減税される (仕入 PIS/CONFIS と相殺)
	社会保険融資負担金 (CONFIS)	年金税制負担金	売上高×7.60%	課税されるが、3.65%まで減税される (仕入 PIS/CONFIS と相殺)
州税	流通サービス税 (ICMS)	付加価値税	付加価値税 (州により異なる)	55%減税～100%減税 (=免税)
	アマゾナス州立大学基金 (UEA)	州立大学支援	ICMS 税恩典額 × 1.5%	課税

	辺境地観光開発基金 (FTI)	アマゾン辺境開発	カーオーディオ・DVD・DSC のみ販売の1%	課税
	中小企業振興基金 (FEPE)	中小企業支援	ICMS 税 恩典額×6% 国内材料×1.0%、輸入材料 FOB×2%	課税
市税	サービス税 (ISS)	サービス業への課税	サービス対価×課税率	対象外

(出所：現地投資誘致コンサルタント・監査法人からの情報を基に(株)日本総合研究所編集)

② 管轄・相談先

マナウス自由貿易地域監督庁(SUFRAMA)が管轄している。

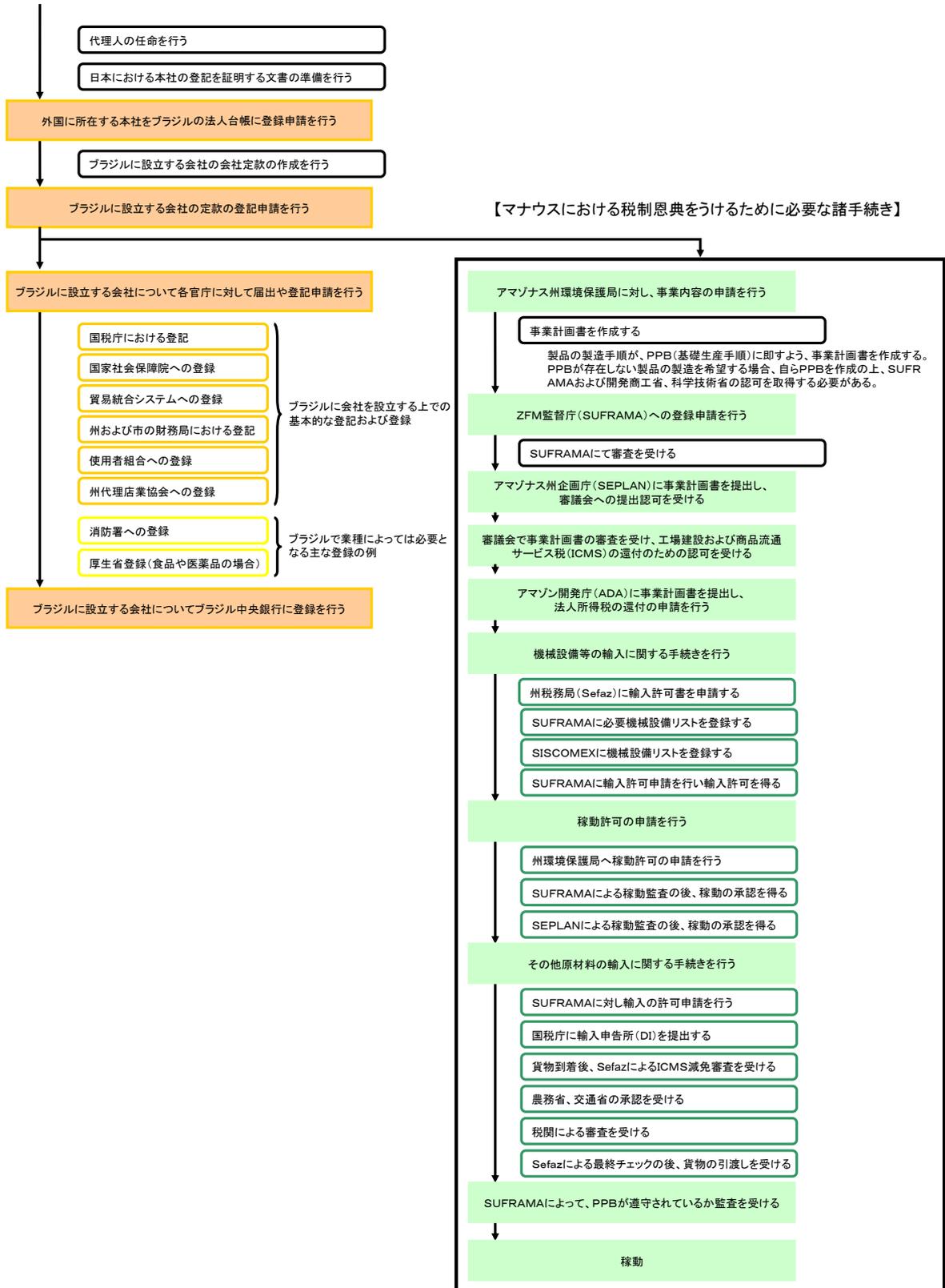
SUFRAMA は各種申請の窓口となっており、進出企業の相談を受け付けている。

図表 21-8 マナウス自由貿易地域監督庁(SUFRAMA)の概要

住所	Av. Ministro Mário Andreazza, 1.424 - Distrito Industrial - CEP. 69075-830 - Manaus - Amazonas
電話／ファックス番号	TEL: +55(92)3321 7000 FAX: +55(92)3237 6549
メール等	SUFRAMA ホームページより問い合わせフォームに記入のこと
URL	http://www.suframa.gov.br/
対応言語	ポルトガル語、英語

マナウス自由貿易地域に進出し、税制恩典を受けるために必要な諸手続きは以下の通りである。マナウスにおける税制恩典を受けるためには、SUFRAMA による認可および監査を受ける必要がある。この手続きに必要な諸書類の作成にはある程度の経験が必要となるため、専門コンサルタントを雇って手続きを任せるとよい。

図表 21-9 マナウス自由貿易地域の税制恩典を受けるための諸手続きフロー



マナウスには、日本商工会議所の支部の一つであるアマゾン日系商工会議所が事務所を置いている。同商工会議所は、企業の進出支援のほか、駐在員および日系人社会のコミュニティの形成を目的に作られている。アマゾン日系商工会議所の概要は以下の通りである。

図表 21-10 アマゾン日系商工会議所連絡先

住所	Rua Terezina, 95 - Adrianópolis - CEP: 69057-70 - Manaus / Amazonas
電話	+55(92)3233 3346
メール等	アマゾン日系商工会議所ホームページより問い合わせフォームに記入のこと
URL	http://www.camaraam.com.br/home.php
対応言語	ポルトガル語、日本語

II. インフラ

遠隔地との移動は、水路および空路が主力となっている。

II-1. 空路

マナウス地域の空の玄関口は EDUARDO GOMES 空港である。

図表 21-11 アマゾン州 主要空港の指標 (2009年)

	滑走路 長 (m)	航空機	乗客数	航空貨物+郵便 (トン)
		発着回数		
EDUARDO GOMES	2,700	45,852	2,300,022	142,623
JÚLIO BÉLEM	1,800	-	43,058	-
TABATINGA	2,150	1,883	35,806	132
TEFÉ	2,200	6,193	20,462	125
EIRUNEPÉ	1,600	-	11,936	-
MAUÉS	1,200	-	6,096	-
FONTE BOA	1,270	-	832	-

(出所：ANAC)

II-2. 水路

アマゾン川およびその支流を通じた水路がマナウスの物流の主力である。マナウスから南東部や南部の主要都市への貨物は、一旦アマゾン川河口に近いベレンを中継地とし、そこでトラックに積み替えて数千キロを道路で運ぶ、というルートを通ることが多い。

ネグロ川



マナウス港



(出所：マナウス自由貿易地域監督庁 ウェブサイト)

II-3. 道路

マナウスを通りアマゾン地域を貫通する幹線道路もいくつか整備されているが、ブラジル南東部や南部の大消費地に至る物流には利用されていない。

マナウスの幹線道路

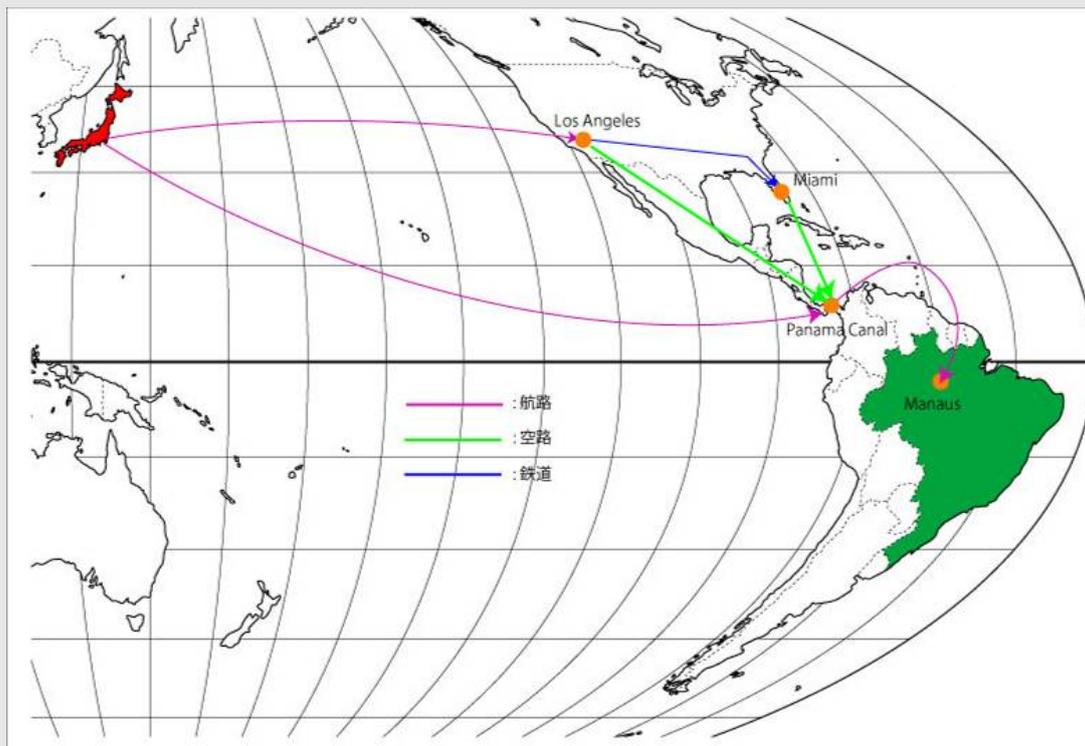


(出所：マナウス自由貿易地域監督庁 ウェブサイト)

ひとくちメモ⑫：日本からマナウスまでの道のり

日本からマナウスまでの物流は、北米経由もしくはパナマ運河経由が一般的である。北米経由の場合、航路から鉄道網を利用し、最終的には航路で運ばれる。パナマ運河経由の場合は、アマゾン川河口に到着した後、マナウスまで内水路が用いられる。

図表 21-12 日本からマナウスまでの道のり



III. 工業団地

マナウス自由貿易地域全体が、工業地域となっている。日本企業のほか欧米、韓国、中国の企業進出も盛んである。現在はもともと工業地区として提供されていた地区では手狭となり、拡張を繰り返した結果、第3地区への展開が行なわれている。外延になるほど、インフラの整備状況は追いついておらず、入居する工場による投資を待つ状況である。

拡大する工業団地



(出所：マナウス自由貿易地域監督庁 ウェブサイト)

IV. 進出日系企業と現在直面している課題

IV-1. 進出日系企業

マナウス総領事館に届出がされている日系企業数の総数は 38 社である(外務省「海外在留邦人数調査統計 平成 22 年度」)。マナウス自由貿易地域の税制恩典をもとめ、日本から数多くのメーカーが進出している。

IV-2. 現在直面している問題

消費地や輸出港から遠隔に位置する内陸のマナウスでは、企業はまず物流の問題に直面する。部品などの調達には、陸路では時間がかかり、産業の集積地であるブラジル南東部からは 2 週間程度必要との声も聞かれる。水運では、ブラジル南東部からはベレンを系由して、マナウスまで運送してくるのが一般的である。マナウスで事業を開始し、順調に利益を生み出すためには、ロジスティクス体制の構築が重要となるであろう。

また、インフラ面では、電力の供給問題が存在し、送電線がマナウスまで敷設されていない為、配電の関連で、電気がしばしば止まることが問題となっている。その対策として、現地企業は、自家発電設備を保有していることがほとんどである。電力コストの高さも問題となっている。

最後に、人材面では、高度なスキルを持っている技術職が少ないということがあり、現地の大学で人材育成を行っているものの、現状では、サンパウロ州などから、技術職の人材を採用することが多くなっている。

恩典のメリットがある一方で、上記の課題群を解決することが、マナウスでの事業の成功のためには、肝要となるであろう。

V. 生活環境

V-1. 住宅事情

マナウス市街地はソリモンエス河とその支流のネグロ河の合流点からネグロ河の約 10km 上流にあるマナウス港を中心に広がっている。高温多湿の多雨熱帯樹林気候であるた

め、住宅を選択する際には風通りのよさも重要なポイントとなる。気候は6月から11月の喚起と、12月から5月までの雨季に大分されるが、乾季でも雨が降ることが多い。

個人運営の不動産の仲介屋が多いので、信用できるブローカーを紹介してもらうのが良い。または、気に入ったアパートの管理人を通じて大家と交渉を行うとよい。

ヴィエイラウヴェスやパルケ・デス、アドリアノボリス地域には日本人の駐在員が多く居住している。

V-2. 食事・買い物事情

マナウス市内にはマナウス自由貿易地域に進出している日系企業の駐在員を中心に邦人が約1千人居住している。そのため、日本食の食材も入手することができるが、サンパウロ等と比較した場合に種類が限られる上、高いことが多い。

マナウスはアマゾン河の河口から約1,500キロ離れた内陸部に位置するため、新鮮な海鮮は手に入りにくい。ピラルクなど、アマゾン特有の川魚が豊富に手に入る。アマゾンの川魚は特に生臭くはなく、調理次第では美味しく食べるが出来る。

V-3. 交通事情

マナウスの公共交通機関は地下鉄が無くバスのみである。しかし、地理に不慣れな場合はバス路線を利用しにくい。また、バス社内の治安があまりよくない事から、移動にはもっぱら自動車が使われている。運転はかなり乱暴なことが多いため、運転中や歩行中には十分な注意が必要である。